



# 羽黒大宮神社と荒木大神宮

(羽黒町羽黒大宮神社境内と天狗山山頂)

問 歴史文化財課 ☎055(223)7324



◀甲府遺産とは  
詳しくは親子だるまブログ▶  
【結いの精神で後世へつなごう】へ



身近にある未指定の文化財を「甲府遺産」として認定し、より多くの方々に知っていただく事業がスタートしました。地域に伝わる宝を、たいせつに受け継いでいきましょう。

甲府市羽黒町の天狗山は“お天狗さん”と呼ばれ、親しまれてきました。山麓に建つ**羽黒大宮神社**は、産土神として崇められ、平安時代初期の大同2年(西暦807)に千塚村から移されたと伝わる由緒ある神社です。『甲斐国社紀・寺紀』には、姫宮明神・若宮・天神・子の神・山の神なども祀られていると記され、登り口の石段を上がると「叶い門」と呼ばれる鳥居があります。家内安全、無病息災、健康長寿、安全祈願、合格祈願、病気回復などの願いごとを叶えてくれるとされ、遠方から参拝に訪れ



▲羽黒大宮神社の「叶い門」。くぐりぬけた境内には6つの巨岩が点在する

る人もいるほどです。また、ここから急登を進んだ山頂にある**積石塚古墳**は直径30m、高さ6mの県内最大級としても有名です。墳丘上には、羽黒大宮神社のご神体とされる**荒木大神宮**が鎮座しています。



▲積石塚古墳の墳丘上に祀られている荒木大神宮。山頂からの眺望は抜群(写真：甲府市教育委員会)

どちらも羽黒山一帯の信仰を今に伝える貴重な遺産。先人から受け継いだ地域の財産を自分たちの手で守り、後世につないでいこうという氏子会の方々の熱い思いによって支えられています。

■羽黒大宮神社 秋の祭禮 毎年10月の第2日曜日

■荒木大神宮 春の祭禮 毎年3月の春分の日直前の日曜日

## とびだせ！市民レポーター！

### 日本最古級の擬洋風建築住宅「富岡家住宅」



▲和風と洋風が調和した特徴的な外観

擬洋風建築とは、主に幕末から明治時代初期に作られた、“外観は洋風・作りは和風”の木造建築です。今回、住居として残る県内最古、全国でも2番目に古いといわれる擬洋風建築・**富岡家住宅**を特別に取材させていただきました。※通常、一般公開はされておりません

#### 和洋折衷の家

富岡家住宅は、山梨県権知事(副知事)であった富岡敬明氏の居宅として、明治8年(1875)から9年(1876)に建築されました。令和4年(2022)に主屋・書院・土蔵・廐が国重要文化財に指定され、敷地内にある石塁も国重要文化財となっています。平成中期までは、富岡家の住居として使用されていました。主屋は白漆喰の壁に窓ガラス、2階にはバルコニー。一見、洋風に見えますが、玄関は和風の瓦屋根と引き戸になっています。屋内は、1階は和風、2階は洋風の作りとなっており、明治期の擬洋風建築を肌で感じることができます。



▲趣のある床の間が際立つ書院

#### 増築の歴史

明治24年(1891)、熊本県知事としての職務を終えた富岡敬明氏は、甲府の家へ戻ってきました。漢文を嗜んでいた氏は、主屋の西側に書院を増築。裏庭にあった大きな2本の松から「**雙松山房**」と名付けられ、川端康成や明治時代三筆の1人・中林梧竹など多くの文人墨客がここを訪れました。その後、さらに廊下を増築したため、壁に軒の跡が残っていたり、段違い2つの廊下が並んでいたり、おもしろい構造になっています。



▲壁に残る跡から、ここに主屋の軒があったことがわかる

#### 富岡敬明氏と富岡家

40代のころに故郷の佐賀で死刑判決を受けた後、恩赦となった富岡敬明氏。その後は地方高官として活躍しました。明治5年(1872)50歳の時、山梨県権参事として赴任し、大小切騒動の収拾、蚕糸業の振興や日野春開拓などの功績を残しています。また、氏が漢文で綴った『**雙松山房史**』には、自身の子孫への言葉も残されており、それは今も富岡家に受け継がれているそうです。



▲お話を聞かせてくださった富岡家現当主・富岡信也さん

市民レポーターブログ  検索



#### 今月の担当レポーター 若木 千尋

今回、富岡敬明氏や富岡家の歴史以外にも、文化財の保存や修理について貴重なお話を聞くことができました。現当主である富岡信也さんの「昔からたくさん人が訪れる場所だったから今後も何かに活用してもらいたい」という言葉が印象に残っています。つないでいくことの大切さと難しさを改めて感じました。

